

木造建築の技登録決定

檜皮葺・左官：ユネスコ無形遺産

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は17日、日本が提案していた「伝統建築工匠の技・木造建造物を受け継ぐための伝統技術」を無形文化遺産に登録すると決めた。フランスで開かれた政府間委員会で採択された。

「文化守る重さ実感」

17件の伝統技術が、ユネスコの無形文化遺産に登録されるのが正式に決まった。後継者育成などに力を尽くす関係者から、喜びや期待の声があがった。

「世界遺産を守ってきた技術を世界が認めてくれた。日本文化を守る重さを感じています」。日光東照宮などの世界遺産を抱える栃木県日光市の日光社寺文化財保存会の匠たちは、喜びをかみしめた。

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は17日、日本が提案していた「伝統建築工匠の技・木造建造物を受け継ぐための伝統技術」を無形文化遺産に登録すると決めた。フランスで開かれた政府間委員会で採択された。

「文化守る重さ実感」

17件の伝統技術が、ユネスコの無形文化遺産に登録されるのが正式に決まった。後継者育成などに力を尽くす関係者から、喜びや期待の声があがった。

「世界遺産を守ってきた技術を世界が認めてくれた。日本文化を守る重さを感じています」。日光東照宮などの世界遺産を抱える栃木県日光市の日光社寺文化財保存会の匠たちは、喜びをかみしめた。



日光東照宮の本殿、拝殿を囲む透塀の欄間彫刻に漆を塗り重ね、金箔をおす技能士二栃木県日光市、梶山天撮影

後継者育成が課題です」と話す。

加賀百万石の城下町、金沢。400年以上の歴史を持つ「縁付金箔製造」は、手すき和紙を加工した「箔打紙」に金を挟み、厚さ1万分の1まで打ち延ばして金箔にする伝統技法だ。

その出来を左右するのが箔打紙の仕込みで、湿らせたい紙を機械で繰り返した灰汁に柿渋などを混ぜたものに漬け、さらしたく。長いときには半年をかけて強度を増した箔打紙で金を打つと、よく延び、色つや

が出るという。

縁付金箔を専門に手がける金沢市の松村法行さん(27)は、父の謙一さん(60)のもとで修業を始めて9年目。紙のどこを、どのくらいの強さで、どの程度たたけば良いのか。その感覚を身につけ、伝統を次代へと渡そうと、「感覚の世界」で模索を続ける。金沢金箔伝統技術保存会の会員は約20人。この約10年間で半減した。法行さんは「文化財を支える大事な仕事。登録を機に金箔や職人の仕事を知らせてもらえればうれしい」と話す。(梶山天、沼田千賀子)

仕口(日本の伝統木組)は
世界文化遺産です

Shiguchi

is

World Cultural Heritage